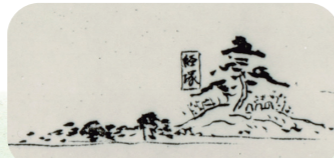


兜塚古墳

市内で一番大きな古墳(円墳)で、墳頂は市内で一番高い地点(標高30.4メートル)になります。そのためか、墳頂に山の頂付近などで見られる三角点(三角測量の基準となる点)が設置されています。伊豆美神社に近い築山なので“宮山”と呼ばれていました。



墳頂の三角点



『江戸名所図会』の泉龍寺の挿絵に描かれた経塚

奈良の大仏の開眼供養で名高い良弁僧正が、お経を埋め、その目印に松を植えたとの伝承があります。江戸時代の記録には、松の樹下に6枚の板碑があると記されていて、古墳から見つかったという板碑が今も伝わっています。

経塚古墳



むいから民家園

狛江市立古民家園

園内には、江戸時代後期に建てられた農家の住宅である旧荒井家住宅主屋と、江戸時代末期に名主の邸宅に構えられた旧高木家長屋門が移築復元されています。古民家にあがることができ、お座敷でゆっくりくつろぐことができます。また、晴れた日に緑側でのんびり過ごせば気分も晴れます。

開園時間：9：30～16：30
休園日：月曜日(休日にあたるときはその翌開園日)、年末年始



むいから民家園の旧荒井家住宅主屋

絵：神原 朋子

猪方小川塚古墳

猪方小川塚古墳

市内ではじめて横穴式石室が確認された古墳です。多摩川流域で横穴式石室をもつ古墳が造られるのは、6世紀後半以降のことになります。狛江古墳群は、5世紀中頃から6世紀中頃の約100年間に、多くの古墳が造られるのが特徴ですが、横穴式石室をもつこの古墳は、古墳群の築造時期とはズレているものになり、副葬品の形態からすると、7世紀中頃に築造されたものと考えられます。6世紀中頃から7世紀にかけて、いったい何が起っていたのか、古代の関東の情勢に目を向けてみると面白いかもしれません。



猪方小川塚古墳の横穴式石室



発掘調査時の亀塚古墳

歩こう! 狛江の古墳 古墳散策マップ



和泉式土器モニュメント

昭和15年(1940)に、工場の整地工事の際に偶然発見された古墳時代中期の土器です。南関東地方ではじめて発見されたもので、発見された地名をとって「和泉式土器」と名付けられました。発見地の狛江第一小学校の北東隅にモニュメントが設置されています。



和泉式土器

土屋塚古墳

東側に小規模な造出をもつ円墳です。周溝から出土した円筒埴輪には、上野国(現群馬県)の工人集団の影響が見られ、この地域にも上野国を介して畿内王権の影響が及んでいたとも考えられます。畿内王権の序列に組み込まれた首長が眠っているかもしれません。



出土した円筒埴輪

亀塚古墳

かつては狛江屈指の規模を誇る帆立貝形の古墳でしたが、開発の波に飲まれてしまい、今では往時の姿をほとんど留めていません。墳丘が失われる以前、昭和26年(1951)に発掘調査が行われ、銅鏡や馬具など、多くの副葬品が発見されました。そのうち、金銅製毛彫金具に刻まれた人物や動物の画像が、高句麗の古墳石室内に描かれた壁画に似ており、狛江と渡来人を結びつける根拠の一つとされてきました。



出土した耳環と鉄鍔

猪方小川塚古墳の石室は、多摩川にて採取したであろう泥岩を加工し、巧みに組み合わせて造られています。副葬品の多くは、盗掘にあい失われてしまったようですが、室内の礎床上から耳環や鉄鍔などが出土しています。